



新小山市民病院ニュースレター

Shin-oyama City Hospital News letter

Vol.28

1 副院長挨拶 ～理想的な病院像とは～

過日の院内会議の中で、令和2年のバランススコアカード（BSC）行動目標についての話がありました。そのなかで、我々医師が身につけるべき資質は何か、という問いに対して、島田病院長から、医学的スキル、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、の3点の習得、が挙げられました。

実に、単純にして明快な目標ではないかと、深く感銘を受けました。

なぜなら、これら3つの目標を並行して成し遂げている組織が、現実にあるのだろうか、と素朴な疑問が湧いたからです。

以前も触れましたが、わたしが当院の達成したい目標として、まず、『患者第一主義』を徹底して実現すること、そして、『すべての職員間の美しい堅固な団結』を創ること、の2つがあります。

『患者第一主義』を徹底するには、高度な医学的スキルの習得を目標とすることは大前提で、これがなければ治療される患者はあまりにも可哀想です。しかし、医学的スキルはあるものの、コミュニケーションスキルに欠けた医療者に対応される患者は、さらに心に大きな傷を負います。病気によって身体だけではなく、医療者の言動によって心身ともに地獄の境涯に追い込まれてしまうのです。

そして、『すべての職員間の美しい堅固な団結』を創るにも、コミュニケーションスキルとマネジメントスキルが必須となります。

その実現のために、島田病院長を中心として、コーチング型コミュニケーション法を用いて、全病的に展開しております。大きな成果が出ることが、非常に楽しみです。

実は、わたし個人として、組織が大きくなるにつれて、様々な個性がぶつかり合うことで、大小の軋轢が各所で噴出してくることは、組織運営の必然であると、最近深く考えるに至りました。それをいかにして団結して乗り越えていくこと出来るかが、次の組織運営への展開ではないかと考えております。

そのためには、リーダーがつねに『目的』を忘れず、職員全員がその『目的』を共有して、個々の『目標』を定め、医学的スキル、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、の3つのスキルを並行して実現していくことではないかと考えています。

3つのスキルを実現するために、リーダーに必要なこと、それは弛まぬ努力と、率先垂範の行動力、そして大きな包容力、ではないかと思えます。また、『桜梅桃李の原理』から、それぞれの個々の個性をそのまま最大限に生かしつつ、全員が同じ心で同じ目的に向かって進むことではないかと考えています。

中国の管子の言葉に、こうあります。一年の計は、穀を樹うるに如くは莫く、十年の計は、木を樹うるに如くは莫く、終身の計は、人を樹うるに如くは莫し、と。職員全員が美しい団結で、次世代に綿々と、また脈々と、同心を継承していけるような人間組織の構築を目指して、倦むことなく、また弛むことなく、日々精進していきたいと思えます。

今後とも変わらず、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和 2年 3月

新小山市民病院 副院長・循環器内科部長 大谷賢一



目次:

副院長挨拶	1
医師紹介	2
お知らせ	3
診療実績報告①	4

ハイライト

- 退院前訪問指導が始まりました
- 患者支援センターからはアンケート調査の結果と救急患者紹介についてご報告させていただきます。
- 各科の診療実績を報告していきます。第1回目は、神経内科・脳卒中センターです

分からないこと、質問等ございましたら、いつでも、医療連携室までご連絡ください。

ポットラック カンファレンス 地域完結型 医療・連携の会

来年度の開催予定日をお知らせいたします。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、詳細は、開催が決まりましたら再度ご案内させていただきます。

たくさんのご参加をお待ちしております。

ポットラック カンファレンス

偶数月、第1火曜日
19:45～ さくらホール①②

お菓子、飲み物を用意してお待ちしております。

6/2、8/4
10/6、12/1、2/2



地域完結型 医療・連携の会

奇数月、第3木曜日
19:15～ さくらホール

軽食をご用意しております。

5/21、7/16、9/17
11/19、1/21、3/18



ドクターの紹介

前回紹介出来なかった外科の三木先生を紹介します。

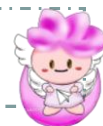


外科
第一部長
三木 厚

平成31年9月から新小山市民病院外科に着任しました三木厚（みきあつし）です。平成12年に岡山大学を卒業し、福山医療センターで初期研修を行い、平成22年から自治医科大学消化器一般移植外科に入局し、研鑽を積んでまいりました。大学病院では、肝胆膵外科を専門とし、肝切除術や膵切除術などを主に行ってきました。

当院外科では、一般外科手術をはじめ腹腔鏡手術から肝切除術や膵頭十二指腸切除術など高度な手術も行っております。お困りの症例などありましたら是非ご紹介ください。小山市の医療に微力ながら貢献できれば幸いです。今後とも何卒宜しくお願い致します。

患者支援センターからのお知らせ

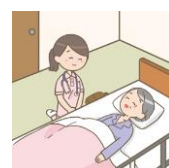


退院前訪問指導スタート！

患者支援センターでは昨年10月より**退院前訪問指導**を開始しました。

退院前訪問指導とは、入院期間が1月を超えると見込まれる患者の円滑な退院のため、患家を訪問し、当該患者又はその家族等に対して、退院後の在宅での療養上の指導を行った場合に、当該入院中1回(入院後早期に退院前訪問指導の必要があると認められる場合は、2回)に限り算定されます。(自宅までの交通費のみ実費)

地域包括ケアシステムが強化される中、在宅療養を安心して選択していただけるよう、看護師・リハビリ療法士など病院の専門職が患者さんの自宅等に訪問しケアマネジャーや訪問看護師などと協働して指導しサポートしています。

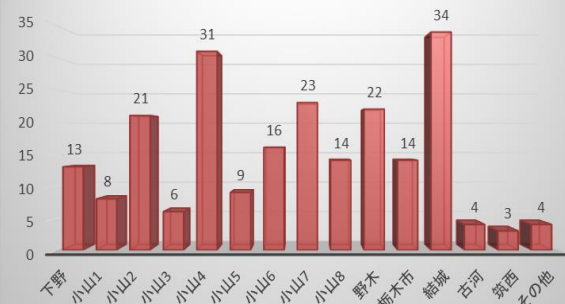


いつも当院運営にご協力頂きありがとうございます。

【地域サービス推進室より】

地域サービス推進室の金澤でございます。1月まで地域の医療機関にごあいさつや情報提供をさせて頂いております。今後も顔の見える連携をめざして、訪問活動をおこなってまいりますのでよろしくお願いいたします。

地区別訪問件数

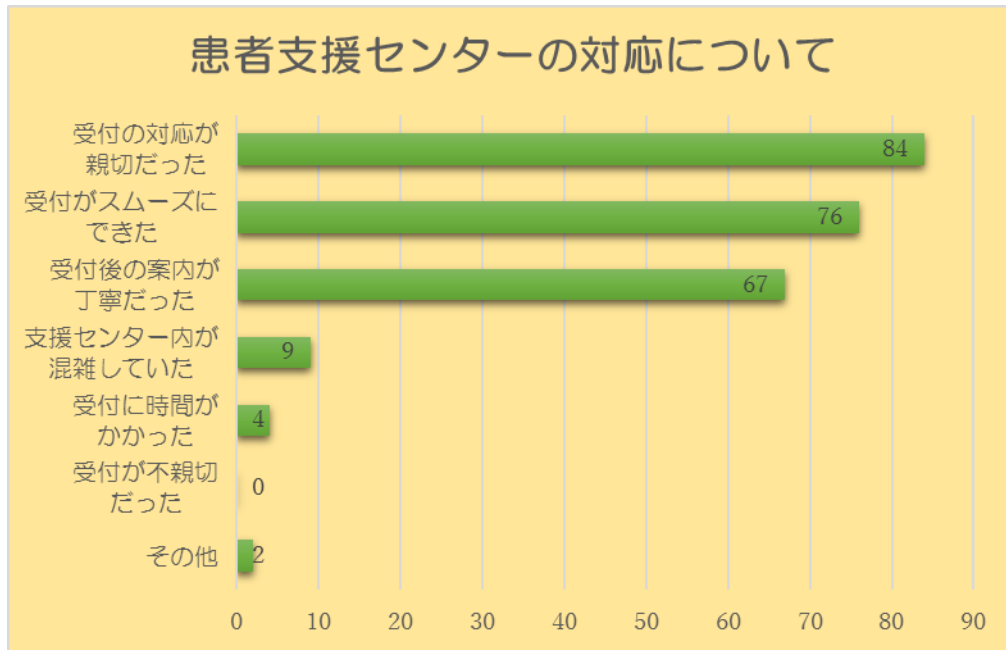


【患者支援センターアンケートから】

1月27日（月）から31日（金）において、紹介患者さんへアンケートを行い受付の対応や診療科別の待ち時間、病院の感想など8項目の回答をいただきました。

グラフではセンター内の対応を表し、おおむね満足であることなどがうかがえました。

（アンケート配付数 201枚、回収数 145件、回収率 72.1%）



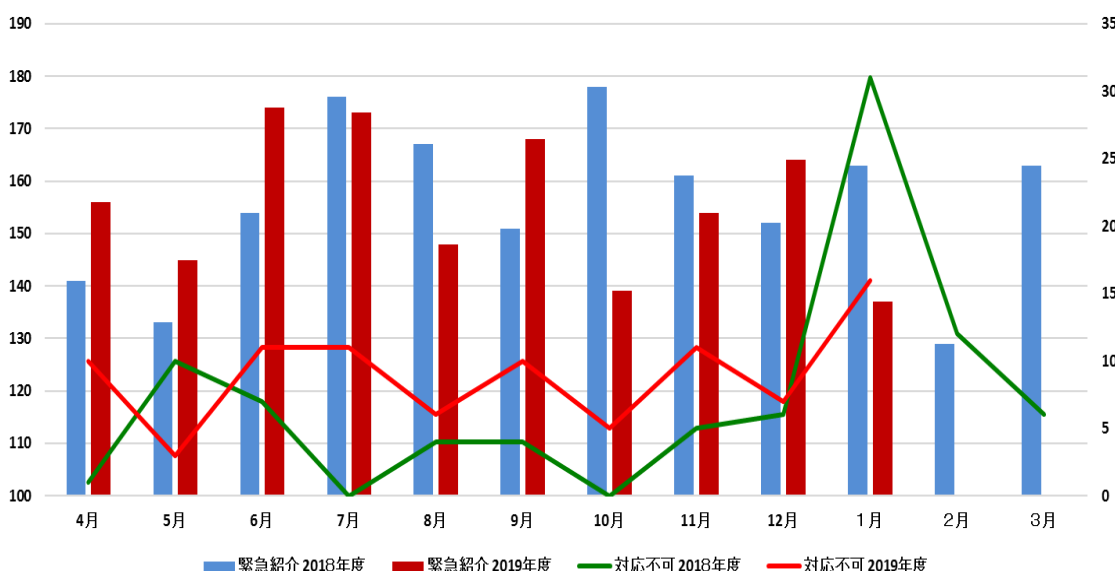
【緊急患者紹介について】

1月までの緊急紹介は1558件いただきうちやむをえない事情などによる対応不可が90件ありました。今後ともできる限り緊急応需してまいりますのでよろしくお願い致します。

緊急患者紹介件数と対応不可等（お断りなど当日対応できなかった件数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	同月累計
緊急紹介	2018年度	141	133	154	176	167	151	178	161	152	163	129	163	1868	1576
	2019年度	156	145	174	173	148	168	139	154	164	137			1558	-18
対応不可	2018年度	1	10	7	0	4	4	0	5	6	31	12	6	86	68
	2019年度	10	3	11	11	6	10	5	11	7	16			90	22

緊急患者紹介と対応不能の推移



患者支援センター

(受付時間 平日 8:30～17:15)

医療連携室：

0285-36-0252

(緊急の患者紹介・転入相談・
その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：

0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・神経
内科・循環器内科の受診予約・
胃カメラ・心エコー・腹部エコー
などの検査予約)

医療相談室：

0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関する
こと・MSWに連絡・その他、外来
患者の各種相談に関すること)

FAX：

0285-36-0352

メール：

renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

※メールでも受付しております。

診療実績報告

～①神経内科・脳卒中センター～

医師会の諸先生方には、常日頃から当病院の業務にご協力いただき
まして御礼申し上げます。今回は昨年1月～12月の神経内科・脳卒中
センターの実績をご報告致します。

神経内科入院は640例で、内訳は以下の通りです。

- 1) 脳血管障害：脳卒中・一過性脳虚血発作 401例
- 2) 機能性疾患など：てんかん発作 43例、めまい 17例、失神 7例、
一次性頭痛 5例
- 3) 炎症性疾患：髄膜炎／脳炎 17例、多発性硬化症など 10例、ギラ
ンバレー／ビッカーシュタッフ脳幹脳炎など 7例、慢性炎症性脱
髄性多発神経炎 4例、その他
- 4) 変性疾患：筋萎縮性側索硬化症 8例、パーキンソン関連疾患 6例
- 5) 頭部外傷（内科的対応） 11例
- 6) その他の神経疾患 30例、内科疾患（肺炎等） 70例など

脳血管障害以外の神経内科疾患なども入院患者の1/3を占めており、
幅広い分野に対応しています。

脳卒中センター（センター長：亀田医師）は、県下初の脳卒中ケア
ユニット（3床）を有し、神経内科と脳外科が協力し24時間体制で患
者受け入れ・超急性期～急性期治療にあたっています。

脳卒中センター（神経内科＋脳外科）入院数は計456例で、内訳は
脳梗塞 292例、脳出血 125例、くも膜下出血（SAH） 23例、一過性
脳虚血発作 16例です。脳梗塞急性期の治療では、血栓溶解療法（rt-PA）
を20例に、脳血管内カテーテルによる血栓回収を15例に施行しまし
た。脳血管内カテーテル検査は岡田俊一医師（脳血管内治療科部長兼
任）が中心となっております。SAHに対する脳外科のクリッピング術
は計15例でした。この数字には含まれませんが、脳腫瘍や慢性硬膜下
血腫などは脳外科で入院対応しています。

脳卒中、特に脳梗塞・脳塞栓は発症後の速やかな対応が不可欠です。
『小山近辺の脳を守る』ため、神経内科・脳外科がタッグを組み対応
しますので、脳卒中に関しては発症後早期でのご紹介を何卒よろしく
お願い申し上げる次第です。

副院長／神経内科部長 川上忠孝

地方独立行政法人 新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 （代表）

ホームページ

<http://hospital-shinoyama.jp/>

看護師採用サイト

<http://hospital-shinoyama.jp/nurse/>

Facebook

[https://www.facebook.com/shin.oyama
.city.hospital](https://www.facebook.com/shin.oyama.city.hospital)

